

令和5年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（ 120 ） 学校名 豊田市立井郷中学校

1 テーマ

自主的・主体的な活動を通し、豊かで温かな心をもつ生徒の育成
-ボランティア「WE LOVE いさと」を中心とした活動を通して-

2 ねらい

本校は、ボランティア活動に力を入れており、ボランティア活動が学校づくりの中核となっている。また、平成28年度から、「WE LOVE いさと」活動を行っている。この活動は、生徒の自主的・主体的な取組を目指し、学校内や校区内でのボランティアを考えて実行したり、地域の方々と意見交流を交わす中で、地域で必要なボランティアを考えたりするものである。

今年度も、昨年度に続いて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動内容の見直しや規模の縮小が図られたが、この活動が本校にとって、生徒の心の成長につながる大切なものであるため、令和5年度も、with コロナを見越したボランティア活動の実施を考えた。

これまでの活動として、学校内では、配膳台磨きボランティアや落ち葉拾いボランティア、地域では、地域清掃ボランティアや成人式用花植ボランティア、福祉活動ボランティアを行ってきた。毎年生徒が計画・立案していくので、若干活動内容が異なるが、これらの活動を通して、井郷中学校を愛する心と井郷地域を愛する心の育成を目指して取り組んでいる。

また、ボランティア活動は、企画、運営、反省、活動内容の共有化に至るまで、生徒主体の自主的な活動であるほど、生徒の豊かで温かな心の育成につながるものと考える。活動内容の確認や共有化を図るために、電子黒板は有効なツールとなる。既存の1台、平成28年度からリースを始めた2台を合わせると、合計3台の電子黒板が確保でき、これらの活動がより充実すると考える。

3 活動内容

- ・井上公園、運動公園などの地域清掃活動
- ・各教室の給食用白衣のワッペンづくりや落ち葉拾いなど、環境整備に関するボランティア活動
- ・季節の移り変わりを彩るための花植ボランティア活動
- ・地域の川（水無瀬川）を守るための水質管理及び清掃活動

- ・交流館の「井郷ふれあい祭り」に積極的にボランティアとして参加するといった地域との協働活動
- ・地域をテーマとした総合的な学習の展開
(1年「地域を学ぶ 地域から学ぶ」 3年 SDG s)
- ・ボランティアの企画、運営、反省を共有化するための電子黒板の活用

4 成果と課題

今年度の成果

《学校評価（保護者アンケート）より》

- * 「特色ある学校づくり推進事業が生徒の教育活動に効果的であるとともに、事業の計画や成果が広く理解されている」のポイントマイナス
⇒令和4年度平均 3.10 →令和5年度平均 ▼3.03

《学校自己評価より》

- * 「ボランティア活動に積極的に取り組んでいる」平均ポイント 3.5 以上を目標
⇒令和4年度平均 3.2 →令和5年度平均 ▼3.0
- * 「電子黒板・ICT 機器を活用した指導をすすめている」平均ポイント 3.1 以上
⇒令和4年度平均 3.2 →令和5年度平均 ▼3.0

いずれも、数値が下がっている。広く活動ができるようになったものの、まだまだ制限される部分もあり、活動内容が生徒の達成感につながっていないと考えられる。

「WE LOVE いさと」活動

- ・10月26日実施。今年度は、withコロナの観点から、活動範囲を校内と地域（校区内）として活動することができた。活動内容は生徒主体の計画によるものであるが、地域における活動については夏休み中に各区長さんにアンケートをお願いし、これを踏まえて時勢に合わせて活動できるよう立案した。当日は校内で活動する生徒、地域の方とともに活動した生徒など多様であったため、他から学ぶこともあったようだ。このような活動を通して、他を思いやる心を育み、地域とのつながりを感じる貴重な機会をえることができた。

交流館「井郷ふれあい祭り」等へのボランティア参加

- ・夏休み期間中、地域で行われる盆踊りで放送進行役を担ったり、ふれあい祭り等のイベント時に吹奏楽部や和太鼓部が演奏を披露したりと、地域におけるボランティア活動も広がってきてている。「地域との協働活動」を通して、魅力ある井郷中生の育成に尽力していきたい。
- ・「いさと地域を愛する活動」として、今年度は、SDG s の視点からフードドライブに取り組んだ。生徒会執行部が主体となって呼びかけ、三者懇談会期間中に、各家庭にある消費しない食料品を持ち寄ってもらい、社会福祉協議会を通して、各種団体へ寄付を行った。このような SDG s の取組は、昨年度、総合的な学習の時間において3年生の実践として始まったものだが、その流れが今年度も後輩たちに引き

継がれている。

電子黒板の活用

・生徒によるタブレット学習が定着しつつある中、タブレットを用いて作成した個人のまとめを共有する機会も増えてきた。本校では、本事業を通して、長期にわたって電子黒板をリースできているので、状況に応じた ICT 機器の選択・活用ができ、これは、情報活用能力や表現力等の育成に効果があったと感じた。学校行事や生徒たちの活動の様子や個々の生徒の考えを共有するツールとして、ICT 機器の活用度は、年々高くなっているが、ICT カートの全教室設置により、電子黒板の活用は昨年度と比べると減ってきてているように感じる。

今後の課題

・「特色ある学校づくり」に関する活動の内容の見直しが必要であると感じる。現状は新型コロナウイルス蔓延以前の活動内容に頼る傾向が強く、活動自体に無理が生じてしまっている。ボランティアの捉え方や地域への貢献を再考し、今後継続すべき活動を精選し新規に取り組む活動を検討していくかなくてはならない。今在籍している中学生は、社会性を育む時期に新型コロナウイルスの影響を受けた年齢層であるため、他者と関わる経験に乏しく、まだまだ視野の狭い生徒が多い。「WE LOVE いさと」活動も含め、他者と関わる機会を設定し、その経験を今後に生かせるよう促していきたいと考える。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

・ホームページを通して、各学年の取組を紹介した。
・「学校だより」や「学年通信」、委員会だより「園芸通信（タブレットを活用）」などで各種取組を紹介した。